

【薬局向け】活用例

過去の薬剤情報を閲覧することで、高齢者の重複の加療を回避した事例

情報提供元：総合メディカル（株）そうごう薬局 越谷レイクタウン店 / 埼玉県

年齢 80歳代

性別 女性

診療科 整形外科

介入項目 薬剤削除

事例詳細

改善要因

過去の薬剤情報を確認

経緯

- 普段、他の薬局を利用しており、当薬局には4年ぶりに来局した患者。歩行時に足の痛みがあり、整形外科クリニックを初めて受診。その際、脊椎骨折の骨粗鬆症所見があるとの指摘を受け、骨粗鬆症治療薬のエルデカルシトールカプセル0.5 μ gが処方されていた。
- お薬手帳の持参なし。他の医療機関の処方薬を確認すると「2～3種類」と答えていたが、マイナンバーカードによる受付で同意を得て、他医療機関の過去の薬剤情報を閲覧したところ、同じ地域の内科クリニックより骨粗鬆症治療薬デノスマブ（遺伝子組換え）製剤の注射処方履歴（3か月前に施行）と、コレカルシフェロール製剤を含む内服薬8種類の処方履歴が確認された。患者は高齢独居であり、薬剤管理は自身で行っているが、処方内容への理解が乏しかった。
- 疑義照会を行い、本患者は既に他の医療機関で骨粗鬆症の治療中の可能性が高いことを医師に報告。エルデカルシトールカプセル0.5 μ gは、薬剤削除となった。

マイナンバーカードを活用した診療情報閲覧で薬剤情報を把握することで、

高齢者の重複の加療を防ぐことができた。